



編集・発行
上甕中学校 PTA 研修部

所在地・連絡先
薩摩川内市上甕町中甕 191 番地 1
09969-2-0014

生徒・保護者・先生が心をひとつに

～祝 入学～



「御挨拶」

PTA 会長 山下 大介

小暑の候、PTA 会員の皆様には、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。本年度 PTA 会長を務めさせていただくことになりました。

早いもので一学期も終わりを迎えようとしています。私がいろいろな用事で学校を訪れる際、いつも子どもたちの元気な声と元気な挨拶が聞こえてきます。職員室では先生方と楽しく会話しながらコミュニケーションを図りつつ、勉強を教わる子どもたちの姿を見ることもあります。

本日にほほえましい様子です。私たち PTA 会員も、生徒・先生方・地域の方々とは協力し合って、

子どもたちが楽しく安全に学校生活を送れるように、努力していかねばと改めて感じます。そして、一人でも多くの生徒に、上甕中学校で学ぶことができよかったですと言ってもらえるように支えていきたいと思えます。

最後になりますが、PTA 会員・先生方・地域の皆様方の今後の一層の御支援、御協力をお願い申し上げます。

自己実現に向け、

独り立ちのできる生徒に

校長 鬼塚 富貴子

本校のキャッチフレーズは、生徒が元気！先生が元気！保護者が、地域が元気！上中から元気を発信！です。

保護者及び地域の皆様方には、上甕の大切な中学校として、上甕中学校への御厚情を賜り、深く感謝申し上げます。おかげさまで、学校行事、及び PTA 活動等におきまして、生徒を主人公とした教育活動（学校行事）を進めております。

また、本校生徒は保護者、及び地域の皆様方の御期待に応えようと教職員の後押しを基に、自己実現と独り立ちに向け日々努力を重ねております。つきましては、今後とも保護者、地域、教職員全員で「自己実現に向けた独り立ち（島立ち）」を合言葉に、次世代の宝である全ての生徒に「やればできる・大丈夫」という自信を高めていけるよう温かい励ましと見守りをよろしくお願い申し上げます。

- か・・・考え、行動し
- み・・・みんなでつながるチーム上甕中
- こ・・・子どもの成長に向かって
- し・・・しっかりとつながる学校、家庭、地域
- き・・・希望は叶うと自信を高めて生徒たち

上甕中学校に入学して

新入生 岩崎 隼人

ぼくが上甕中学校に入学して四か月が経ちました。初めは少し緊張していましたが、今では楽しく充実した学校生活を送ることができています。僕は、最初の頃に考えた学校生活目標の「みんなと協力し、自分の持っている力を最大限に引き出し、充実した学校生活を送る」をしっかりと続けられていると思います。



これからの学校生活を充実したものとするためにこの上甕中学校のために役立つような存在になれるよう、頑張っていきたいです。そして、来年度、新しく入学してくる今の六年生に学校のことをしっかりと教えてあげられるようにしていきたいです。

新入生保護者 岩崎 聡子

上甕中学校への入学は、転校の多い環境にある隼人にとって、小学校から共に過ごした仲間と同じ中学校に入学でき、大変うれしいスタートとなりました。あこがれの先輩方と同じ制服に身を包み、上甕中学校の生徒になれた喜びにあふれ、誇らしげな表情をしていました。何より親として嬉しかったことは、二年生、三

年生のみなさんが温かく歩み寄り、一年生を迎え入れてくれたことです。また、先生方が生徒と心から向かい合い愛情を持ってご指導くださっており、日々充実した学校生活を過ごせていることに感謝申し上げます。地域の方々も親身になって、励ましのお言葉をかけてくださいます。人と人との結びつきが強い甕島だからこそだと思います。この素晴らしい恵まれた環境を当たり前だと思わずに、地域の方々や先生方、友だち、そして雄大な自然の美しさと厳しさから、多くのことを学び、これからの礎をたくさん見つけてほしいと願っております。

新入生 岩下 聖也

ぼくは、中学校の入学式では、とても緊張して、手足が震えました。入学して、もう四か月が経ち、僕たち一年生は、少しずつ中学校生活に慣れてきました。今は五人で協力し合いながら、仲良く、楽しく、笑顔いっぱいいるクラスになっています。僕は学習面では国語、社会を得意科目にするという目標を持っています。生活面では、早寝早起きをするということと、五〇メートル走で六秒台で走るという目標を持っています。部活動では、新人戦で優勝することと三年生の先輩に勝つことを目標としています。



卓球の全国大会に出て、優勝したいと思っています。僕は、みんなと仲良く、楽しく中学校生活を送りたいと思います。

新入生保護者 岩下 佐枝子

聖也が入学し、早くも四か月が過ぎようとしています。最初の頃は緊張しながら毎日登校していましたが、先生方も声をかけてくださり、時には叱ってください、今は学校が楽しいと言ってくれます。小学生の時とは違い、自分で気付き、自分から進んでやるようになりました。まだまだ自分に甘く、できていない所がたくさんあります。親としてはそこを直すべく、日々教えていきたいと思っております。

入学してから「数学は苦手だけど、楽しいからがんばる」など一日の出来事を話してくれるようになりました。学習面はまだですが、息子が楽しく生き生きと学校に行く姿は、親としてとても嬉しいです。先生方が一人一人大切に育ててくださっていることが伝わってきます。日々感謝です。学校生活はこれからも続きますので、よろしくお願いたします。



新入生 中尾 歩

ぼくは、この上甕中学校に入学した最初の頃は分からないことが多く、とても緊張していました。また、授業内容も難しくなり、あまりついていけないと感じていました。しかし、四か月が経ち、少しずつ慣れてきているように感じます。部活動も始まり、この一学期間で少し成長できたと思います。

これから、学習面では、しっかりと授業についていき、宿題もしつかりしていきたいです。

生活面では、病気になるまいよう手洗いうがいをしつかりし、マスクを使用するなど予防に努めていきたいです。また部活動では、少しでも先輩方の力になれるように頑張りたいです。



新入生保護者 中尾 理香

雨の入学式、五名の新入生が緊張しながらも笑顔で入場してきたのが印象的でした。

個性豊かな新入生。小学校では新しい仲間との出会いがあり、卒業と同時に別れもあり、寂しさを抱えながらの中学校入学。小学校生活とは違い、学習面も生活面も三年後の島立ちに向けて、充実

させていってほしいです。

歩は三年生に兄がいることをとても心強く思っているようで、家に帰って来てからの二人の会話を聞くのが楽しみの一つになっています。

部活動では剣道部に入部し、何もかもが新しいスタートです。一人だけの新入部員で、最初は先輩方について行くのに必死だったと思います。歩なりに一生懸命練習し、一日一日成長していくのを感じています。気がつけば学生服もなじんできたように感じます。これから上中での三年間で心も身体も大きく成長してくれるのを楽しみにしています。強く、優しく、そして素直な気持ちと感謝の思いを忘れることなくがんばれば、歩、先生方、PTAのみなさま、親子共々、どうぞよろしく願いいたします。

新入生 西 愛麗

私がこの上甕中学校に入学して三か月が過ぎました。三か月間、みんなで決めた学級目標「五協仲楽笑」で毎日を過ごすことができたと思います。

これからも五人で、協力し合い、仲良く、楽しく、笑顔いっぱい、のクラスを作っていきたいです。

個人的には、学習面では、苦手な教科をがんばり、生活面では、自



立起床を目指し、この一年、気合いを入れてがんばりたいです。運動面でも、全体的な体力の向上と陸上競技のレベルアップを目指して、日々、がんばります。

新入生保護者 西 奈津美

入学して三か月が過ぎました。夏の到来を迎え、空が眩しく感じられます。

最初は新しい環境に戸惑っていた愛麗も優しい先生方、先輩方、同級生に支えてもらい少しずつ学校生活に慣れてきました。これから始まる三年間は決して平坦な道ではありませんと思います。勉強と陸上の両立、様々な葛藤など、時には辛かったり、悲しかったり、壁にぶつかることもあると思います。その時には自分の力で乗り越え、新たな力を見つけてほしいです。そして、失敗を恐れず、何事にも積極的に色々なことに挑戦してほしいです。

これからの三年間、愛麗が自分の目標に向かって元気でたくましくそして、より素晴らしい飛躍できるように、お父さん、お母さんは応援しています。

先生方、保護者のみなさま、ご迷惑をおかけすることも多々あると思いますが、が、親子共共、よろしく願いいたします。



新入生 濱邊 香乃

上甕中学校に入学して三か月が経ちました。三か月前は楽しみみな気持ち半分、不安な気持ち半分でした。でも今では学校にも慣れ、とても楽しい毎日を送っています。生活部や海風などの仕事が多くで大変だけど、先輩方や先生方と協力して活動することができ、「自分は中学生なのだ」と実感することが多くなりました。

私は、これから苦手な教科を克服し、得意になるようがんばりたいです。さらにやるべき仕事や宿題は、その日のうちに終わらせたいです。

そして、勉強も部活動も習いごとにも充実させ、みんなで協力して何事もがんばっていききたいです。



新入生保護者 濱邊 寛征・香乃

娘が上甕中学校に入学して、早三か月が経とうとしています。我が子を初めて中学校に入学させるにあたって、父親の母校だという喜びを感じながらも、小学校とは違う学校生活や部活動など心配や不安は尽きませんでした。

しかし、そんな私どもの思いもよそに、優しく声をかけてくださる先輩や先生方に支えられて、学校生活にも慣れてきたようです。家族での毎日の会話の中で、必ず「楽しい」という言葉を聞く

ことができ、大変嬉しく思います。

三年間は長いようで短く、あつという間に島立ちをする日が来ます。たくさん不安が少しでも軽減できるように、任せられる手伝いを増やしたり、家族でできる体力作りをしたり、家族のコミュニケーションの時間を大切にしたりと、家庭でできることを精一杯していきたいと思えます。そして、これからも続く我が子の成長から目を離さず、共に喜び、見守っていききたいと思っています。

地区総体を終えて

卓球部保護者 梶原 健太

六月六・七日の二日間に行われた、川薩地区中体連卓球大会が行われました。男子五名、女子六名が団体戦・個人戦に挑みました。一年生三名にとつては初の公式戦。三年生四名は最後の地区総体でした。世代交代の場でもあり、何より県大会への切符を獲得するための重要な大会で、部活動でのターニングポイントと言っても過言ではない大会でした。

団体戦では、緊張からかいつものプレーができない場面も目立ち、男女ともに県大会への出場は逃してしまいました。個人戦では、全員が一球ごとに気持ちのこもったプレーを見せてくれました。一年生の三名は短期間で著しく上達し、初出場とは思えないほど堂々とした試合を見せてくれました。二年生四名も、見る側を引き込む白熱した試合で今後繋がる経験になったと思います。

三年生では男子二名が県大会への出場を決めました。女子二名は県大会出場は逃したものの、三年間の思いを小さなボールに何度も何度も打ち込

む姿は、胸が熱くなるほど感動的でした。

卓球というスポーツは一瞬の中で高い集中力、正確な判断、思い切った行動力、どれ一つ欠けても一点を失います。三年生は受験に向けて、卓球部で学んだことや思いを振り返り、がんばってほしいと思います。

一・二年生は三年生の思いを引継ぎ、自信を持って次のステージへ進んでください。

最後に部員たちを支えてくださった先生方、指導者、保護者のみなさまに心から感謝いたします。三年間、ありがとうございました。



剣道部保護者 中尾 理香

今年の上中剣道部は三年生二名、二年生一名、一年生一名の四名で地区総体に挑みました。五月に吹上で行われた錬成大会や伊集院中との合同練習と、三年生はもちろん、一・二年生もこの日に向けて一生懸命練習を重ねてきました。団体戦予選リーグでは川内北中、宮之城中との試合になりました。全員が気合いの入った戦いを見せてくれました。一年生の歩さんも初めての地区総体でしたが、堂々と試合をすることができました。最終的に決勝リーグに進み、そこでもそれぞれが、相手に引けをとらない戦いをしていました。個人戦でも、延長までいくなど四人ともよく粘り、太史さんは一本勝ちし、二回戦へ進むことができました。三年生にとっては最後の試合になっ



てしまい、悔し涙を流す姿に胸が熱くなりました。しかし、負けたからこそ得るものが多く、それぞれの力になったと思います。今回の総体では、私たち保護者も凛々しい四人の姿に感無量の思いでした。指導していただいた先生方をはじめ、地域の方々に感謝の心を忘れず、これからもそれぞれに活躍してくれることを祈っています。ありがとうございます。



平成二十九年転入職員紹介

校長 鬼塚 富貴子

私は表現することが好きで、またその表現方法が多様多様です。会話、生け花、遊び字、パッチワーク、料理、絵、ダンスなど自己流で自分の思うまま（頭に浮かぶもの）に表現し、自己満足しています。全くの素人ですが、とても楽しいです。また、教師への憧れは、黒板にチョークで字を書きたかったから、それだけです。体育の教師をめざしたのは、運動が好きだったから、それだけです。自分の興味と関心があることに、自分で考え、行動し、表現し、自己満足し生きているのが私です。大人になり、マーフィの法則の本に出会いました。その本に、「自分の魂の船長は自分であり、自

分の運命の支配者。」「よいことを思えばよいことが起こる。」「自分の身の周りに起こる事全ては、自分が引き寄せている」という内容にふれ、私の中にストーンと入ってきました。この世に生を受け、仕事に就き、結婚し、家族を増やし、大切な人との別れを経験した私。三十年ぶりの一人暮らしですが、日々色々なことを考え、表現を楽しんでいます。

教諭 官野 邦友

変わらない自然。変わらない人情。世の中が大きく変化する中、変わらないものや人が心地よい感動を与えてくれる。それがこの甌島だと改めて思う。

この地を愛し、ここにずっと住んでいる方はそれを当たり前と思っているかもしれない。しかし甌島を離れた人々はそうは思わない。素晴らしいこの地を守っていてもいいものがある。

しかし、やはり人口の問題は悲しいものがある。鹿児島県、特に離島の少子高齢化は大きく進んでいる。少子化は特に悲しいものを感じる。地域から子どもたちの声が聞こえてこないのはやはり寂しい。少しずつでも人口が、特に子どもたちの数が増えて欲しいものである。でもこの生徒たちは非常に明るく元気である。努力家も多い。その子どもたちの手助けになればと思う。自分も生徒たちも大きく成長していくようにしていきたい。



教諭 瀬戸口 仁

平成二十九年度四月の定期人事異動で、鹿屋市立鹿屋東中学校からこちらに来ました。

こちらに来て早三か月が経とうとしています。着任早々から地域の方々や保護者の方々から温かいお言葉やお心掛けをしていただき本当に感謝しています。また、前任校は、八百人を超える鹿児島県でも一・二位を争うマンモス校で、日々生徒たちの指導に明け暮れる毎日でした。そんな六年間を過ごしてきました。常々、私の仕事は生徒一人一人の良いところを探し、伸ばすことであると心掛けていましたが、前任校ではなかなかできずに、悔しい日々を過ごしていました。しかし、こちらの生徒は、これまでにない純粋な生徒たちばかりです。少々戸惑いを感じることもありますが、行事や授業など様々な場面で触れあい、多くの思い出を作り、大切な自分の財産にしていきたいと心からそう思っています。



教諭 西 あかり

育児休暇を終え、約2年ぶりに復帰しました。新任教で、「西先生、おかえりなさい。」という生徒歓迎の言葉を聞き、心が温かくなったのを今でも覚えています。同時に、目の前にいる生徒たちのために、自分ができる限りのことをしていかなければいけないという思いも強くなりました。そ

のために、まずは、生徒一人一人をよく知り、いいところを見つけていこうという思いで日々過ごしています。

さて、わたしは走るが好きで、復帰前は時間があると甕島の自然を満喫しながらジョギングを楽しんでいました。今は、家事・育児・仕事に追われて走る時間がありませんが、時間に少しでも余裕があれば、またジョギングを始めたいと思っています。気力・体力ともに生徒のパワーに負けないように努めていきます。どうぞよろしくお願います。



事務職員 飯伏 怜佳

十七年ぶりの甕島生活がスタートし、あつという間に三か月が経ちました。上甕中学校での勤務が決まった際、それまで引越しや職場を異動することに不安いっぱいだったはずの気持ちが、すっと軽くなったことを覚えていています。十五で島立ちをしてから、親元を離れ、姉と暮らし、慣れない生活に苦労したこともあり。そんな時、心の支えになったのは家族や甕島で出会った友人たちでした。私の中で十五年間の甕島での生活は、一生の宝物となっています。島立ちに際し、大変なこともあり、気付かされることも多くあり、家族愛、友人愛が深まります。中学生のみならずには今の生活を大切にしたいと思えます。また私たちの頃からある伝統行事もすっかり受け継がれていて、うれしく思うことでした。これからは事務室から陰ながら応援します。

私生活では甕島の自然を存分に楽しみたいと思います。まずはイカを釣ってみたいです。家族で休日に海へ行き、釣りにチャレンジしていますが、

なかなか釣れません。しかし、釣りからも学ぶことが多く、子どもたちの心の成長が楽しみです。

至らないことも多くあると思いますが、これからどうぞよろしくお願いたします。

『編集後記』

今年度最初のPTA新聞をお届けします。多くの方々のご協力のもと、無事に「南風」を発行することができました。原稿依頼を快く引き受けてくださった先生方、保護者の方々、生徒のみなさん、ありがとうございました。また紙面作りをしてくださった先生方、力を貸してくださいました。研修部の皆さまに感謝申し上げます。

今回は、新しく赴任された先生方のあいさつ、一年生の今後の抱負、保護者からのメッセージ、そして六月に行われた地区総体といった内容となっています。新年度がスタートし、慌ただしく過ぎた一学期でしたが、宿泊学習・修学旅行を通して、子どもたちの成長した姿や地区総体での頑張りに感動しました。

次号でも子どもたちの活躍する姿をお届けします。これからも皆さまの御協力、よろしくお願いたします。

(研修部 部長 西 健一)

